

基本目標2 国際都市千歳にふさわしいグローバルな感覚を育てる

【基本方向】

- 5 新しい時代に対応した学校改善の推進と「学校力」の向上
- 6 社会の変化に対応する力を育成する教育の推進
- 7 国際社会に生きる人材を育成する教育の推進

施策項目12 学校組織の活性化に向けた取組の推進

現状と課題

千歳市では、「教職員による校務分掌計画や学年・学級経営案の作成と実施においてマネジメントサイクルにより着実に成果をあげている」^{〔石狩管内〕}と回答した学校の割合が小・中学校を平均すると7割を超えており、一定の協働体制はできています。

学校組織の活性化のためには、学校経営方針や学校の重点目標を明確に示し、全教職員による経営参画意識や協働意識を高めその具現化を図ることが必要です。また、校内でリーダーシップを発揮する教員を育てたり、学校運営の改善を図るために運営委員会などの組織を位置付けて、学校の機能を向上させることが求められます。

今後は各学校が持つ様々な課題解決に向けて、校内のコミュニケーションや学校同士のコミュニケーションの活性化を一層図ることが必要です。

施策の概要

学校の総合的な機能を十分に果たすための校内組織体制を工夫し、計画・実施・評価・改善のサイクルが成果や好循環を生んでいる事例を紹介するとともに意見交換の場を設けるなど、学校の活性化を図ります。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
学校間の交流の促進 【学校】	校長会議等において各学校の学校経営方針や、校内組織のあり方や特別委員会の実施方法についての交流を図ります。
学校指導訪問の充実 【市教委】	子どもが生き生きと活動する教育課程の編成や確かな学力を身につけさせる授業のあり方について、学校訪問を通じて指導・助言を推進します。
学校力向上の推進 【学校・市教委】	学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校・近隣実践校による取組を進めるとともに、内容と成果について、各種の会議や研修会で還元を図ります。

目標指標

指標の内容	現状値	H32 目標値
学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し取組に当たっている学校の割合【H25 全国】 ^{資料②}	H25 小 68.8% 中 50.0%	小 100% 中 100%
学習指導と学校評価 [※] の計画の作成に当たっては教職員同士が協力し合っている学校の割合【H25 全国】 ^{資料②}	H25 小 56.3% 中 62.5%	小 100% 中 100%

※学校評価：平成 19 年に改正された学校教育法において、学校は、学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図ることにより教育水準の向上に努めること、保護者等との連携協力を推進するため、学校運営の状況に関する情報を積極的に提供することが定められた。

基本目標2

基本方向5 新しい時代に対応した学校改善の推進「学校力」の向上

施策項目13 開かれた学校づくりの推進

現状と課題

千歳市では、「保護者や地域住民の協力、学校評議員の活用による学校運営の改善について着実に成果をあげている」^{〔石狩管内〕}と回答した学校の割合は小学校 23.5%、中学校 33.3%にとどまっています。

学校の総合的な機能である「学校力」の向上や改善は学校単独ではできません。児童生徒が学校や地域で生き生きと学び生活するためには、学校が学習指導や生活指導において十分にその役割を果たしながら「地域づくり」の中核となっていくことが求められています。

今後は、家庭や地域との連携・協力を一層進め、「学校が望む支援」と「家庭や地域社会が提供できる支援」を教育委員会等がコーディネートし、協力体制を充実させていく必要があります。

また、学校は地域に向かって開かれているだけでなく、子どもや保護者、教職員などに対しても開かれている必要があります。

施策の概要

学校からは情報の積極的な発信と公開、家庭や地域からは学校への支援を積極的に行うなど、双方が目標を共有化できる「開かれた学校づくり」を推進します。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
地域による学校支援事業の充実 【学校・市教委・地域】	学校支援地域本部事業などを通じて、「学校」と「家庭や地域」との連携を進めます。
学校の自己評価の充実 【学校・市教委】	学校評価の項目についてのわかりやすい説明や保護者アンケートを実施した結果を懇談会や学校便りで公表するなど学校の取組についての情報発信に努めます。
子どもによる授業評価の推進 【学校】	授業や教師に関する子どもアンケートを行い、学校改善に役立てる取組を進めます。
学校評議員・学校関係者評価委員の活用 【学校】	学校の方針や取組を説明したり、改善意見などを受けてよりよい学校づくりに生かす取組を促進します。

目標指標

指標の内容		現状値	H32 目標値
保護者からの意見や要望を聞くために懇談会の開催やアンケート調査を年間4回以上実施している学校の割合(再掲) 【H25 全国】 ^{資料⑦}	H25	小 43.8% 中 62.5%	小 100% 中 100%
学校評価をホームページで公開している学校の割合【市教委】	H25	小 70.6% 中 55.6%	小 100% 中 100%
「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った、どちらかといえば行った」と回答した学校の割合(再掲) 【H25 全国】 ^{資料②}	H25	小 81.3% 中 75.0%	小 100% 中 100%

施策項目14 教職員の資質・能力の向上

現状と課題

各学校では、教職員の資質・能力向上のための組織的・計画的な校内研修[※]が充実してきており、授業改善のための研修が着実な成果をあげています。反面、「長いスパンでの教職員一人ひとりの特性に応じた研修会への計画的な参加や、その成果の校内への還流という面では着実に成果をあげている」^{〔石狩管内〕}と回答した学校の割合は小学校 29.4%、中学校 11.1%にとどまっています。今後は学校職員評価制度などを有効に活用して、教職員の一層の資質・能力の向上を図っていくことが必要です。

また、児童生徒、保護者及び地域住民から信頼され、質の高い教育を実践するため、教職員一人ひとりが高い倫理観を持ち、社会的責任を自覚して行動することが求められています。

施策の概要

教職員の資質・能力の向上を目的とした校内外の研修の充実を図るとともに、コンプライアンス[※]の徹底を推進します。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
授業改善につながる校内研修の充実 【学校・市教委】	指導主事及び学校教育主事による学校指導訪問を通じて、学校運営や授業改善について指導・助言を行い研修の充実を図ります。
教職員研修の充実 【市教委】	市独自の研修会を充実し、教職員の積極的な参加を促進します。
コンプライアンスの徹底 【学校・市教委】	校長会議、教頭会議をはじめとする多くの場で学校職員が自覚を高め、法令遵守を徹底するための働きかけを行います。

目標指標

指標の内容	現状値		H32 目標値
「学校でテーマを決め、講師を招聘するなど校内研修会を行った、どちらかといえば行った」と回答した学校の割合 【H25 全国】 ^{資料⑤}	H25	小 81.3%	小 100%
		中 87.5%	中 100%
授業研究を伴う校内研修を年間5回以上実施している学校の割合【H25 全国】 ^{資料⑥}	H25	小 87.6%	小 100%
		中 100%	中 100%
「長いスパンでの教職員一人ひとりの特性に応じた研修会への計画的な参加や、その成果の校内への還流という面では着実に成果をあげている」と回答した学校の割合【石狩管内】	H25	小 29.4%	小 100%
		中 11.1%	中 100%

※**校内研修**：学校ごとに学校や地域をめぐる教育の今日的課題に即して自主的に実施・参加する研修活動。

※**コンプライアンス**：単に法令違反をしないということだけでなく、組織内の各種ルールを遵守するとともに、社会常識や高い倫理観に則って正しい行動をすること。

基本目標2

基本方向5 新しい時代に対応した学校改善の推進「学校力」の向上

施策項目15 学校間の連携・接続の推進

現状と課題

小1プロブレム、中1ギャップ、高1クライシス[※]などの問題に対応するためには、学校同士が相互に連携を図り、積極的に交流を深めることを通じて、幼・小・中・高等学校間の教育課程の滑らかな接続を図ることが重要です。

千歳市では、「小学校と中学校による合同の研修会や情報交換、児童生徒会のあり方について理解を深める機会を充実させることにより着実に成果をあげている」^{【石狩管内】}と回答した学校の割合は小学校 35.3%、中学校 44.4%にとどまっています。

一方、幼稚園や高等学校との交流など、経験を広げて豊かな人間性を育む交流学习や学びの連続性に配慮した年間指導計画づくりが求められています。

施策の概要

小・中学校間での課題等の共有、教育指導への相互理解を深めることができるよう合同での研究会や研修会を充実させるとともに、幼稚園や高等学校を含めた学校種間での指導のあり方の共通理解などを通じ、連続性のある教育活動の充実を図ります。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
小・中連携の促進 【学校】	子どもの実態をとらえ、学習指導や生徒指導の面で相互に求められる姿や指導のあり方を協議するとともに、共通の課題に対する小学校と中学校の連携した取組の推進を図ります。
幼保小連携の促進(再掲) 【学校・市教委・幼稚園等】	幼稚園・保育所(園)と小学校の間で子どもの成長に関する情報交換や交流の機会を充実させ、小学校へ円滑に接続できるよう取組を進めます。
小・中学校が連携した家庭学習の手引きの作成 【学校】	児童生徒の実態を踏まえ系統的な指導をするため、中学校区ごとに小・中学校の共通した学習の手引きを作成します。

目標指標

指標の内容		現状値	H32 目標値
「小学校と中学校による合同の研修会や情報交換、児童生徒会のあり方について理解を深める機会を充実させることにより着実に成果をあげている」と回答した学校の割合 ^{【石狩管内】}	H25	小 35.3% 中 44.4%	小 100% 中 100%
「保育所や幼稚園との連携を行っている、どちらかといえば行っている」と回答した小学校の割合(再掲) ^{【H25 全国】} ^{資料②}	H25	小 81.3%	小 100%
「教科の指導内容や指導方法について、近隣の学校と連携をよく行っている、どちらかといえば行っている」と回答した学校の割合 ^{【H25 全国】} ^{資料②}	H25	小 87.5% 中 87.5%	小 100% 中 100%

※中1ギャップ、高1クライシス：中学1年や高校1年の生徒が、小学校から中学校、あるいは中学校から高等学校への進学に際し、大きな環境の変化に適応できず、問題行動等を引き起こしやすい状況にあることの通称。

施策項目16 関係機関団体との連携協力の推進

現状と課題

千歳市では、日常的に関係機関との連携・協力が積極的に行われています。教育の成果を高めるためには、前例踏襲によることなく新たな動きに対しても素早く対応したり積極的にチャレンジしていくことが必要です。また、学校単独で工夫や対策が必要なものだけでなく、千歳市内・石狩管内・北海道全体と範囲を広げ共通の理解に立った取組を行う必要もあることから、関係機関や団体との連携や協力を一層充実させていくことが大切です。特に教職員で構成する教育研究団体である「千歳市教育振興会」との連携を一層強めていくことが重要です。

また、町内会やNPO※の市民団体や企業など、教育活動を行う上で相互協力を行っている市内の団体との連携についても一層充実していくことが大切です。

施策の概要

関係機関や団体などと連携・協力を図り、教育活動を充実させて学校力の向上に努めます。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
関係機関・団体との連携 【学校・市教委】	教育内容や方法を充実させ、各種教育関係機関や団体との連携を図り、学校力の向上を図ります。
市民団体や企業など様々な機関や団体との連携の充実 【学校・市教委】	各種の作品募集やイベントの案内など、学校以外の機関や団体からの要請のほか、職場体験や人材の派遣、大学などの研究機関との連携による教育課程の充実に努めます。

目標指標

指標の内容		現状値	H32 目標値
「関係機関や団体とのつながりを強化し、学校力の向上に向けて着実に成果をあげている」と回答した学校の割合【市教委】	H25	小 32.4% 中 33.3%	小 100% 中 100%
職場見学や職場体験活動を行っている学校の割合【H25 全国資料②】	H25	小 31.3% 中 100%	小 100% 中 100%

※NPO:NonProfit Organizationの略。非営利組織。政府・自治体や企業とは別に社会的、公益的な活動を行う非営利の組織(団体)。

基本目標2

基本方向6 社会の変化に対応する力を育成する教育の推進

施策項目17 ICT教育の充実

現状と課題

インターネットや携帯電話の普及など高度情報化の進展により、日常生活や経済社会のあらゆる活動において、情報が果たす役割や影響がますます高まっています。学校においても、ICTを最大限に活用し、よりわかりやすい授業を実施することによって、子どもたちの学ぶ力の向上を図ることが重要となっています。また、個人情報情報の漏洩や有害情報の氾濫、ネットいじめなど、高度情報化の負の側面も見受けられています。

今後、ますます進む高度情報化の中で、主体的に課題を解決できる情報活用能力と確かな学力を身に付けるため、電子黒板などICT教育環境の整備やICT活用能力の向上、効果的な学習指導の実践が求められています。

施策の概要

高度情報化の進展に対応し、ICT環境の整備を進め、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用したわかりやすい授業により児童生徒の学力の向上を図ります。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
ICT教育環境の整備 【市教委】	電子黒板・実物投影機※をはじめとする授業用デジタル機器※や校内の無線LAN化など、年次計画に基づいてICT環境の整備を進めます。
教員のICT活用能力向上支援体制の充実 【市教委】	教員のICT活用能力向上のため、教員への研修の充実を図るとともに、ICT支援員を配置し、学校訪問によるサポート体制を充実します。
ICT機器の活用 【学校・市教委】	子どもたちの興味関心を高めるとともに、効果的な学習指導を進めて学力向上を図るために、ICT機器を整備してその活用を促進します。

目標指標

指標の内容	現状値	H32 目標値
電子黒板及び実物投影機を配置している普通教室の割合 【市教委】	H25 小 46.3% 中 70.2%	小 100% 中 100%
千歳市教育委員会として実施しているICT活用に関する研修会を実施した回数【市教委】	H25 年1回	年2回以上

※実物投影機：プロジェクタやテレビにつないで、教科書や資料、立体作品、実際の作業場面、パソコンの画面などを拡大して映し出し、見ている人が情報を共有することができる装置(書画カメラ)。

※授業用デジタル機器：タブレット端末、デジタル教科書、ブルーレイレコーダーなど。

施策項目18 環境教育の充実

現状と課題

子どもたちが自ら考え行動することで、環境にやさしい心情を育むとともに、環境保全活動や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することが求められています。

千歳市では、身近な環境や日本全体・地球規模での環境保全の大切さについての理解を深めるため、総合的な学習の時間[※]を中心に環境教育に取り組んでいます。「環境に対する関心を高め意欲的に関わろうとする態度を培う学習活動の工夫について着実に成果をあげている」^{【石狩管内】}と回答した学校の割合は小学校35.3%、中学校11.1%にとどまっています。

今後は、ふるさと千歳の身近な環境に直接触れる体験を通じて環境についての関心を高め、環境保護に意欲的に関わろうとする態度を育てる学習活動を一層工夫していくことが必要です。

施策の概要

千歳川や支笏湖、青葉公園などの身近な自然環境を学ぶとともに、節電やごみの分別、リサイクルの取組などにより、環境問題についての理解を深め自然を守る教育を推進します。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
環境問題への理解の促進 【学校】	身近な自然を守ることや地球規模の環境問題への関心を高め、環境保全に取り組む意欲や態度を育てるため、千歳市ならではの特色を生かした環境教育の取組を充実します。
環境に配慮して主体的に行動する態度の育成 【学校】	全小・中学校で、児童生徒の自主的な活動を重視しながら、節電やごみの分別・リサイクルなどの取組を進めます。

目標指標

指標の内容		現状値	H32 目標値
「環境教育に関わる各教科等の指導内容との関連を明確にした指導計画の工夫について概ね成果をあげている」と回答した学校の割合【石狩管内】	H25	小 100% 中 100%	小 100% 中 100%
「環境に対する関心を高め意欲的に関わろうとする態度を培う学習活動の工夫について着実に成果をあげている」と回答した学校の割合【石狩管内】	H25	小 35.3% 中 11.1%	小 100% 中 100%

※総合的な学習の時間：各学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心等に基づく学習など、創意工夫を生かした教育活動を行う時間。

基本目標2

基本方向7 国際社会に生きる人材を育成する教育の推進

施策項目19 外国語教育の充実

現状と課題

グローバル化が加速する現代において、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する理解を深め、豊かなコミュニケーション能力や主体性・積極性を身に付けて、様々な分野で活躍できるグローバルな人材を育成することが求められています。

千歳市では、すべての小・中学校でALT※が外国語活動及び英語の授業に参加しています。学校では、「ALT等を活用した英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ英語活動など、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成について着実に成果をあげている」^{〔石狩管内〕}と回答した学校の割合は小学校 100%、中学校 77.8%にのぼります。今後も外国の人たちとも積極的にコミュニケーションを図る基礎となる力を育てるために、小学校外国語活動・中学校英語教育を充実していくことが大切です。

施策の概要

国際社会に生きる人間として望ましい態度や、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることのできる資質や能力の育成を図ります。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
教員の指導力・英語力の向上 【学校・市教委】	小学校の外国語活動における教員の指導力向上に向けた研修を実施し、ALTと協力した教材を作成し授業づくりを充実します。
小学校外国語活動の充実 【学校】	中学校による小学校への出前授業の実施や合同での指導案作成など、小学校と中学校が連携した取組を進めます。
コミュニケーション能力の育成 【学校】	総合的な学習の時間等において、千歳市アクティブスクール事業※やALTを活用して、外国の方や海外生活の経験のある方とのコミュニケーションを体験する取組を進めます。

目標指標

指標の内容	現状値		H32 目標値
教職員の外国語活動指導力向上のために千歳市教育委員会として研修会を実施した回数【市教委】	H25	年0回	年2回以上
「英語活動を通じた積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成について着実に成果をあげている」と回答した学校の割合【石狩管内】	H25	小 100% 中 77.8%	小 100% 中 100%

※ALT:外国語指導助手(Assistant Language Teacher)のこと。中学校・高等学校において外国語担当教員とのチーム・ティーチングによる語学指導及び小学校での「総合的な学習の時間」において実施される外国語会話学習への参加や地域の様々な国際交流活動に従事する外国青年。

※千歳市アクティブスクール事業:千歳の子どもの躍動感や未来への羽ばたきを期待し、特色ある教育活動の積極的な推進並びに児童生徒の健全育成を図ることを目的として、学校が行うアクティブな教育活動事業。

施策項目20 国際理解教育の充実

現状と課題

千歳市は国際空港を有し、世界各国と直接つながる国際都市であり、アメリカ合衆国のアンカレジ市、中華人民共和国の長春市、ノルウェー王国のコングスベルグ市と交流を深めています。また、「国際理解教育について着実に成果をあげている」^{〔石狩管内〕}と回答した学校の割合は小学校 52.9%、中学校 29.6%となっています。

優れた国際感覚や国際理解の精神を身に付けるためには、日本及び北海道、そして自分の生まれ育った地域への理解を深め、郷土に対する愛着や誇りをもった人を育み、その上で、諸外国の人々とお互いの文化、習慣等を理解し合い、異なる文化や生活習慣を持つ人々と協調して生きていく態度を培うことが重要です。

また、英語を単なる知識に終わらせることなく、国際社会の一員としての自覚を持ち、国際社会に生きる未来の子どもたちが異文化を理解してコミュニケーションを図り、自らの考えや意見を適切に伝えることができる能力が身に付くよう国際理解教育の充実が求められています。

施策の概要

国際社会において主体的に行動できる資質・能力を育成するため、自国の歴史や文化・伝統とともに、諸外国の文化、習慣等について理解を深め、異なる文化や生活習慣を持つ人々と共に協調して生きていく態度を培うとともに、積極的にコミュニケーションを図る取組を支援し、国際理解教育の充実を図ります。

主な取組及び具体的な内容

主な取組	具体的な内容
イングリッシュキャンプ [※] の実施 【学校・市教委】	子どもたちが、生きた英語でのコミュニケーションを体験できるイングリッシュキャンプの取組を積極的に支援します。
外国の文化に触れ合う機会の充実 【学校・市教委】	総合的な学習の時間等において、JICA [※] 等の人材を活用して、外国の文化や生活に触れる取組を支援します。
姉妹都市や姉妹校との交流事業の推進 【学校・市教委】	サンドレイク小学校やミアーズ中学校との相互訪問交流を推進して、外国人の人たちとの交流を体験する事業を支援します。

目標指標

指標の内容	現状値	H32 目標値
「国際理解教育の充実について着実に成果をあげている」と回答した学校の割合 ^{〔石狩管内〕}	H25 小 52.9% 中 29.6%	小 100% 中 100%
国際理解・国際交流に関するイベント等への支援回数 【市教委】	H25 年1回	年3回以上

※イングリッシュキャンプ：子どもたちが、オールイングリッシュにより、参加外国人や友人と会話や遊びを楽しみながら、英語に対する自信と興味・関心を高め、異文化体験を通じて、相互理解の大切さを学ぶ事業であり、期間は半日程度の短いものから、宿泊を要するものまで様々な形態がある。

※JICA：Japan International cooperation agency の略。独立行政法人 国際協力機構のこと。日本及び国際経済社会の健全な発展の促進を目的としており、国際協力の志を持った方々を開発途上国に派遣し、途上国の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国の抱える課題の解決に貢献する JICA ボランティア事業などを行っている。